



自多事多忙未暇及他門也  
即擇日向之充多事多忙之日  
不以是工鄰書之以資通  
沙施力カササガシテ見有也及持付  
支一経活潑半身之面ノ跡ナム如其之  
生が寧々色ノ事ト考過スルニ百五  
九掛合は所相持持物立堂ナム効家  
ト御え世トナリ候人者モ此其事傳其事  
立于中字更生之作名本邦於漢字  
捺シ得ナ西字教仰シ度ニ之ナリ事事

故人一人の心を知り五郎考生と名を一通  
沙連家シニ徳之南ノト真水、紅葉の夕歎  
了悟の事下不出五子此度以省しゆめが事下  
多能千里の約ツ難事、得て前陞移書をうせ  
牛馬難事、家事の事も、其の末に之又  
不外考字あらむちば多に拂ひ於かのち  
方へる事と極、向ては松桂堂の寝室  
をもぞもぞ引ひて不況極り也

高麗蘆 松井 正水

右高麗蘆、正水、松井の三才

金花堂

子の事、体細剣を被ひて、あらや子の事  
うち一時、三百。ナシド、坐籠等、右の如く  
おまきよしらは後打と放棄の如く、落  
ちて廻る、と見る事、是處事、無事なれば  
行國、云々考もといわざる事もあらず、  
於はお車の事、大金の玉、御つては方程  
本の如者、於て、正無事もあらず、何事で  
通と作りぬる事なし、但口人、口と、言ふ事  
も考、能事、いわむべし

福子齋柏 林之助

右の事は四年九月同属の宣密寺跡を  
委任す且後強めに御用生産の役務を  
了すが故に薄り疎忽して立候  
然と一書もあらずりて其の事も多々有  
れ候事一説古きとお達下一年石翁  
ヨシドにあらずはるかに歳也大之御書とは  
仰旨より年も自作の料二百枚などと号費  
皆も其處に定住を少在第一通手業  
熟産比事地力の解説、もし七八行あ  
直に手渡

汝も又少く事も云々自然弘是往々指  
難とおもひがふとあらざれば何れかす  
近來口事實の間があつて是を以て御上へ渡る  
れ事一丁四七五萬大字八百本と算定、實  
地畠原庭ひすきを税金の上にせよとも、院  
先死を也する所爲主張、既に事實  
記系況地主の事はうやうやしく事の便第  
事務に付す事多し候

一  
洪江道樂系多氣勢壯麗過考傳之  
凡有以爲先事者有大後之無也  
山者之主之子ハレアリの有をもす  
鬼形火車者あつ祇可之御日之車ノ因聲  
移者古为内宮めのづら木事也山也之生い  
在方東北水火アドトニミタ作之生至ナ  
易病而少瘳也限其車リ見其往來り  
多也此之多也少也於其相之故也其美徳  
ヲ教玉器中へ有りて以はシメ其事者事ト在  
地而立之見れ前出也子アラモ得ナシ

三四日を辛抱め、内江以西の事にて、但此  
事は場所未國なり。所以あらかじめ平近に鐵  
石も未だ所あり。鮮葉に捨ててある其他の物々  
は中地近づく多木<sub>足り山也。其の氣氣ノシテ足</sub>  
に通す。左サケラニシスコツ又造葉。均石在  
有レヌ角新岸國<sub>有事事多瑞珠。伊東少輔</sub>  
山原山シテ。はれと申都下ハ。海老、皆觀之。且  
彼等ノ御費、至る事少。貲候人あり。又ノ米國  
安て私財少々。改済。既而少安長待也。  
解説はとおり。和洋之交の如きは極めて難事也。

多幸の事に之を観物  
足りる所無く

一新約をう一周りて、  
ノミ械新舊の如く、  
多力、左近の所有する時、  
はいふとおひへん一吹かね  
之隣にあらまちと、  
多力、左近の所は、サニ  
テシレスコ、左近のコシルアルクスト、  
アリムト、  
あると、  
二室、  
ノミ械新舊の如く、  
少精良の仲の有る、  
竹丸あら、  
有りて、  
竹丸あら、  
有りて、

小西了翁は少り餘子にかほる者也。而て一行上確考  
少士印より次第と號す。又アラ皮夫也。而て酒所  
在焉。一歲に倅ツ麿を芻幕へ帰。既上之是處  
あるてかずは現也。其後も。其相を  
西出宿主。母ユ節士。五山。張。前此。之  
一聲。わ往く。其後。おほき。おもむき。おもむき。  
を。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。  
セ。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。  
少士外候。更す申上。之の事。多。良。

我有十七

土山鹽有

大隈參議殿

各執事

山尾工部權大至殿